



# 但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

2011.9

第26号

但馬国府・国分寺館  
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町柿布 808  
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112  
http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/



戦いで死んだ弥生人(神戸市・新方遺跡)  
神戸市埋蔵文化財センター写真提供

神戸市西区にある新方遺跡では、弥生時代前期の人骨が10体以上見つかっています。そのうち半数の5体は、矢を射込まれた状態で見つかりました。特に3号人骨(写真手前)は、17本もの石鏃が射込まれた、特異な出土状況で話題となりました。

この遺跡で見つかった人々の多くは、戦いで命を落とした人たちのなのでしょう。

## 第24回企画展 **戦い** —古代の武器・武具—

現代社会は、多くの難題や矛盾を抱えています。その最たるものは戦争です。戦争は卑劣で残虐な行為であり、決して許すことはできません。では、人はいつから戦うようになったのでしょうか。人間以外の霊長類も時に相手を殺すことがあります。それを戦いとはよびません。戦いとは、集団同士がぶつかって殺しあうことなのです。

今回の展示では、縄文時代から平安時代までの武器や武具を紹介し、戦いの起源や軍事組織の形成過程を考えます。錆に覆われた古代の武器・武具から、当時の武人の思いや平和の大切さを感じていただければ幸いです。

■会期 平成23年9月1日(木)～12月6日(火)

■展示協力機関・個人 (50音順・敬称略)

朝来市教育委員会 朝来市埋蔵文化財センター  
いずし古代学習館 宮内庁正倉院事務所  
神戸市教育委員会 神戸市埋蔵文化財センター  
東京国立博物館 豊岡市立出土文化財管理センター  
奈良文化財研究所 兵庫県立考古博物館  
野洲市教育委員会 養父市教育委員会  
岡田章一 河合順之 斎木 巖 田畑 基 中村大介  
丹羽崇史 山根実生子 吉岡佐和子

## ● 戦いのはじまり

縄文時代にはすでに弓矢があり、石で作った<sup>やじり</sup>鏃が使われていました。縄文時代の鏃は、長さ2～3cmと小さいため、人間への殺傷能力は低く、シカなどを捕らえるための狩猟具であったと考えられています。

農耕を基盤とする暮らしが始まった弥生時代になると、生活が安定するとともに人口が増え、社会の仕組みは複雑になります。やがて、集団を統率する政治権力が生まれ、集団間のいざこざが争いとなり「戦い」が始まりました。その証拠として、<sup>かんごう</sup>環壕集落や殺傷人骨、武器の登場などが挙げられます。建物群の周囲に壕をめぐる環壕集落は、弥生人が自らの生活を守らねばならなかったことを示しています。さらに、墓への武器の副葬や殺傷人骨は、「戦い」の存在を直接的に物語っているのです。



縄文時代の石鏃（左2点）と  
弥生時代の石鏃（右）

## ● 弥生時代の武器と武装

弥生時代終わり頃の日本のことを記した「魏志倭人伝」には、「倭国乱」と記され、当時は戦乱の世であったことが分かります。さらに、兵士は矛や楯、弓、<sup>てつぞく</sup>鉄鏃を使っていたことも記されており、当時の武装の一端を知ることができます。

発掘調査から知られる当時の一般的な武器は、剣と弓矢（鏃）。その材質は、木や石から、より強度のある青銅や鉄へと変わっていきます。



環状石斧（豊岡市・衾布ヶ森遺跡）

磨製石剣（養父市・野添遺跡）  
養父市教育委員会蔵



鉄剣（豊岡市・  
妙楽寺墳墓群）



左：銅鏃（豊岡市・  
東山墳墓群）

右：鉄鏃（豊岡市・  
香住門谷墳墓群）

### Topics <sup>すかんとう</sup>素環刀

素環刀は、握り部分の先端に鉄の環をつけた刀。日本で出土する素環刀の多くは舶載品ですが、国産品もみられます。その一つが、豊岡市・立石101号墓出土のもの（右）。これは、<sup>なかご</sup>茎の先端を折り曲げて環を作っています。このような作り方の素環刀が大陸にはないことや、製作にさほど高度な技術を要しないため、在地で作られたと考えられています。



## 古墳時代前期の武器と武装

前方後円墳の登場とともに幕開けした古墳時代。古墳時代の武器・武具は鉄製品が主体となりました。

古墳時代前期の鉄製武器は、大陸産の舶載品もあれば国内産のものもありました。ただし、どちらも「産地直送」ではなく、畿内政権を経由した再分配が行われていました。たとえば、鉄刀の場合、舶載の大刀に畿内で装具（把や鞘）を取り付けて各地へと配布していたのです。

畿内を経由した再分配は、古墳時代前期の畿内政権が、鉄素材の入手や鉄器生産そのものを掌握していたのではなく、製品の流通しか掌握できていなかったことを表しています。



入佐山3号墳の埋葬施設



豊岡市・入佐山3号墳出土の鉄製武器  
(左から槍、鉄剣、鉄鏃)

## 古墳時代中期の武器と武装

古墳時代中期になると、剣よりも刀の比率が増し、鉄製の甲冑が普及するなど多くの変化がみられます。この武器・武具の変化は、武装の革新ともいえるほど大きなものでした。また同じ時期、古墳への主要な副葬品が、青銅鏡から甲冑へと変化します。副葬品に武器や武具が増えることは、古墳の被葬者が司祭者から武人へと変わったことを意味します。

古墳時代中期の武器・武具は、九州など一部地域を除いて、畿内で生産され、各地に配布されるようになります。これは、畿内政権が鉄素材の入手から武器の生産・流通までを掌握し、大きな政治権力を手にしたことを示しているのです。



朝来市・茶すり山古墳の埋葬施設  
(兵庫県立考古博物館写真提供)



短甲（豊岡市・小山1号墳）



鉄鏃  
(豊岡市・小山1号墳)

## 古墳時代後期の武器と武装

古墳時代後期になると、各地で横穴式石室をもつ群集墳が築かれるようになります。横穴式石室からはほぼ例外なく鉄製武器が出土することから、この時期には各地で武器生産が活発化し、多くの武器が作られたことが分かります。

古墳時代後期には、剣や槍が消滅し、大刀と弓矢（鉄鏃）が武器の主役になるなどの変化がみられます。この変化を促した要因は、馬の普及。大陸から馬が伝わると、これまでの接近戦ではなく、騎馬戦を中心とした戦法が広まったのです。



但馬各地の大刀

左端：豊岡市・カヤガ谷1号墳  
中左：朝来市・筒江長尾古墳  
中右：朝来市・春の木田1号墳  
右端：豊岡市・楯縫古墳

### Topics 2つの鏃

古墳時代後期の鉄鏃は、扁平な平根式鉄鏃（写真左）と、細長い長頸式鉄鏃（同右）に大別できます。

平根式鉄鏃は、鏃身部が大きいので殺傷力が低く、儀礼的な役割をもっていたと考えられています。一方、長頸式鉄鏃は、大陸に起源をもち、貫通力に優れた実戦的な鉄鏃なのです。



左2点：朝来市・立脇トウスガ谷2号墳  
朝来市埋蔵文化財センター蔵  
右2点：豊岡市・カヤガ谷1号墳

## 奈良・平安時代の軍事組織

7世紀後半、天皇を中心とした中央集権国家が成立すると、律令という法律に基づいて国が運営されるようになります。軍事も律令によって規定されており、兵士は1戸1兵士を原則とする徴兵制で、大規模な歩兵集団による戦いが基本でした。

但馬には、平安時代に「気多軍団」や「兵庫」（武器庫）などが置かれ、軍事組織が整備されていたことが、文献から知られています。



上：鑿根鏃、中：槍、下：雁又鏃（滋賀県野洲市・野田沼遺跡）  
野洲市教育委員会写真提供

## 但馬国府・国分寺館 ご利用案内



■開館時間 午前9時～午後5時  
（入館は午後4時30分まで）

■休館日 毎週水曜日  
（祝日は開館し、翌日休館）  
12月28日～1月4日

■入館料 大人 500(400)円  
高校生 200(150)円  
小中学生 150(100)円  
\*（ ）は20名様以上  
\*県内小中学生は無料  
\*65歳以上の方は半額



国分寺館キャラクター  
たじまる・くにひめ



ホームページQRコード

■イベント案内などの最新情報は、当館ホームページをご覧ください。

<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>

**TOYOOKA**  
コウノトリ悠然と舞うふるさと